



国労東京地区本部

2026年1月14日
地区本部ニュースNo. 4
発行責任者 松田 恭明
編集責任者 佐藤 賢一

安心して働き続けられる職場をつくろう

東京地区本部旗開き開催

東京地区本部は1月12日、ホテルラングウッドにおいて結成後初めての新春旗開きを開催した。総勢で37人が集まり、今年一年間の抱負と闘う決意を固めあった。会の後半では恒例の大抽選会が始まり、会場は歓喜につつまれた。豪華景品が当たった仲間もいたが、家まで持ち帰れたかが心配だ。昨年の東京支部時代の旗開きよりも多くの仲間が結集して2026年の幕が開けた。世の中はかつてないような事件、大国による武力を背景とした侵略などが続いているが、私たち労働者は情勢をしっかりと分析し、今年一年間健康に気をつけて闘いを継続していこう。



来賓

鉄道退職者会 小宮山 進東京地連会長
中央労働金庫 佐藤 朋広荒川支店次長
東京全労協 小泉 尚之議長

JAL 被解雇者労働組合

宝地戸 百合子副委員長

小栗 純子副委員長

来賓のみなさまお忙しい中ありがとうございました

職場での声掛けが第一歩

もう一人の仲間の国労加入を勝ち取ろう！

分会からの決意表明

第一分会 安達副分会長

総勢100名を超える組合員がどのように運動にかかわってもらうかが課題。やはり話し合う場を設けて、私たちの世代も「もう運動は終わり」ではなく、組織拡大に向けて頑張っていきたい。私自身は70歳まで国労組合員として頑張っていく決意です。

第二分会 鶴間書記長

現役社員は旅客、貨物あわせても3人しかいない。それぞれの職場で大胆に国労加入を訴えていくしかない。私自身は未加入者に「国労はよい組合だ。労働組合がなくなったら本当に困るんだ」と言うことを訴えていきたい。



松田委員長新春のあいさつ

新年明けましておめでとうございます。執行委員長の松田です。旗開きに結集頂いた組合員の皆さま、大変ご苦労さまです。また、お忙しい中かけつけて頂いたご来賓の皆さまに、心からお礼と感謝を申し上げます。



異様な世界情勢 新たな帝国主義の幕開けか？

昨年から引き続き世界情勢も国内情勢も平和と民主主義が著しく損なわれている状況となっています。ロシアのウクライナ侵略も間もなく4年が経過しようとしています。供給される武器も拡大し、出口も見えない中で周辺国の緊張を高めています。さらにはイスラエルとパレスチナ・ガザ地区の問題。世界で巻き起こった「ジュノサイド反対」の声の前に昨年10月9日に停戦が行われましたが、その後もイスラエル軍の攻撃で命を落とした人が500人以上にものぼる状況となっています。

さらに1月3日、アメリカはベネズエラの大統領夫妻を軍事行動により拘束・移送するという暴挙とも言える事を実行しました。マスコミも含めて様々な論調がありますが、武力による国際法違反との指摘も数多く出ています。アメリカ・ロシア・中国と、大国と言われる国が軍事力を背景に小国を支配・植民地化を企てるなど、帝国主義の時代に戻ろうとしています。

このような情勢の中、日本においても「自らの国は自らの力で守る」という意見も数多く出されてきています。核武装さえも具体的な議論に上っています。戦後80年、平和憲法を大切に、「平和と民主主義」を守ってきたことが今、奪われようとしています。

高市政権は高い支持率を維持し、右翼的な政策を打ち出し「戦争の出来る国」づくりに邁進しています。中国との対立をはじめに外交での問題や、円安・物価高の問題と課題は山積しているのに具体的な解決策は見い出せていません。しかし、野党側も一枚岩ではなく今後の政治状況もなかなか見えてこない中で、物価高、貧困と格差の拡大など、大多数の国民が苦しんでいます。今こそ立憲主義に基づく市民と野党の共闘が求められている時はありません。予想される衆議院の解散・総選挙においても全力を上げ政権交代をはからなければなりません。

国労組織の最大の課題である組織強化・拡大はまったなしの状況が続いています。国鉄採用組が本体からほとんどいなくなり、どのように運動と組織の継承を行っていくのかが引き続きの課題となっています。それは、組合員が結集出来る場をどう具体的につくり出していくのかという事になります。同時に今後若い仲間運動を引き継いでいくためにも、少しでも機関の課題や問題点を整理していかなければならないと考えています。

昨年10月には東京支部は東京地区本部へと名称変更をしました。そして11月・12月には第一分会と第二分会の二つの組織も立ち上げてきました。この間の組合員の皆さまの真摯な議論とご協力に改めて感謝を申し上げます。今後も、組合員・分会の皆さんと真摯に議論しあい、より良い方向に進めていきたいと考えています。国鉄採用の組合員も「もう運動は終わり」ではなく、意識的にかかわっていただくことを強く訴えたいと思います。

また一方ではエルダーやシニア社員の問題も数多く出てきています。出向先もバラバラで労働条件も職場により大きく違ってきています。そのため身体を壊したり、心が病んだり仕事や人間関係が原因で退職に追い込まれている仲間も多くいます。労働組合が仲間を守らなければ意味がなくなります。仲間と繋がり支えあい、会社に改善させる取り組みを全機関が総力を上げて行わなければ働き続けられない実態が続きます。

総力を挙げて大幅賃上げを勝ち取ろう

労働組合の組織率が東日本会社では10%程度と言われている状況の中、会社は「新たな組織と働き方」と称し、今年4月と7月に組織や賃金を始めとする労働条件を大きく変えようとしています。「36の事業本部化」を初めにあらゆる職種・職場で徹底した合理化施策を矢継ぎ早に進めてきています。また、社友会を労働組合に変わるパートナーとするために、労働法制改悪の議論の中にJR東日本が率先して押し込もうともしています。

今こそ、自らの職場実態や仲間の気持ちに依拠した闘いを構築し、反撃出来るのは労働組合だけだと明らかにしていきましょう。

最後に26春闘に向けてです。今月27日に中央委員会が開催され国労としての春闘要求や闘いが決定されます。地区本部としましても上部機関と連携しながら精一杯奮闘する決意です。3月10日には地区本部春闘宣伝行動等に取り組むことも執行委員会の中で確認してきています。詳細は指示等で明らかにしていきますが、全組合員の結集を強く呼びかけさせていただきます。課題は山積していますが、地区本部としましても本日の旗開きを契機に、さらに闘いを強めていくことを決意し、執行委員会を代表してのご挨拶にかえさせていただきます。本日は大変ご苦労様です。